

「貫志」～最後の最後まで～

宇佐高 進路だより

No. 1 平成30年 5月10日 発行元：宇佐高等学校進路指導部



☆ こんにちは。今年度、進路指導主任になりました立山勇司と申します。よろしくお願ひします。今年度も不定期に「宇佐高 進路だより」を発行していきます。時間があるときにお目通しをお願いします。

まず、今年度の進路指導班のメンバーを紹介します。

| | | |
|-----|-----------------------------------|--------------------------------|
| 1年部 | 西 弘子 (1-3担任・数学) | 矢野将嗣 (1-1副担任・物理/情報) |
| 2年部 | 田淵尚子 (2-3担任・国語) | 永野智久 (2-3副担任・英語) |
| 3年部 | 岡崎 拓 (3-1担任・数学) 立山勇司 (進路主任・数学) | 坂本孝幸 (3-2担任・地理) 磯辺玲子 (進路事務) |

この8名が中心となり、宇佐高生の進路希望実現に向けてお手伝いをしていきますのでどうぞよろしくお願ひします。

☆ 1年生は入学して約1ヶ月が過ぎましたが、高校生活に慣れてきたでしょうか？学習、部活動、学校行事、その他、様々な面で中学校と高校では違う部分があるので、なかなか慣れずに、疲れが溜まっている人もいるのではないのでしょうか？是非、ある程度の睡眠時間を確保し、疲れを翌日まで残さないようにしてほしいものです。

2年生は中堅学年（実質は宇佐高校を牽引する学年）としてこの1ヶ月を過ごしてきたでしょうか？（4月の歓迎遠足では生徒会行事一つをとっても、さすが2年生と思う場面がありました）よく言われることですが、この1年間でどのように過ごすかによって高校生活の充実度が変わってくるのが2年生という1年間の位置づけです。

3年生はこの1ヶ月間をどのように過ごしてきたでしょうか？言うまでもなく、進路決定の年になりました。この1年間は平坦な道りではないことが予想されます。誰もが自分の進路第一希望を実現させたいと思っていますが、最も大切なのはそれに向かっていく過程です。その過程の中で人間としての成長が得られるのです。

☆ タイトルの左上に載せている文字「貫志」は造語です。この言葉は私が尊敬している先生が使われていた言葉です。その先生に許可を得てこの言葉を使わせていただいています。意味的には「初志貫徹」ということです。人間は困難に出遭うと、どうしてもその場から逃げ出したくなるものです。逃げ出すのは簡単ですが、それでは人間としての成長はそこから生まれません。上にも書きましたが、困難に向かっていく過

程で成長が生まれるのです。生徒の皆さんにお願いしたいのは、志をもって、その志に向かって努力をし、多少の困難は時間がかかってもよいから乗り越えて欲しいということです。勿論その際、友人、家族、先生の力を借りても構いません。ただし、一つだけ条件があって、その「志」は自身にとって後々に後悔しないものであるかをチェックしておかなければなりません。その時難しいのが「今は後悔しない」と思っ

☆ 初回の「宇佐高 進路だより」の中で生徒の皆さんに是非お願ひしておきたいことがあります。それは『読書習慣』を身に付けることです。読書の意義は言うまでもありません。皆さんも十分承知していることだと思いますが、なぜ、読書離れのニュースを目にするのでしょうか？読書離れについては様々な原因が考えられますが、あまり読書をしない人は“めんどくさい”とか“時間がもったいない”と

普段、読書の習慣がない人は何かきっかけがないとなかなか読書を始めようとは思わないと思います。1、2年生に関しては中間考査後の朝学習の時間に1週間だけ朝読書の時間を設定しています。早めに本校の図書館に行き、読みたい本を探してください。勿論、書店で本を購入することもできますが、図書館には司書の先生もいますので、本のことを色々相談できますし、何より図書館は蔵書が充実しています。

3年生は朝読書はありませんが、時間を見つけて読書もしてください。「受験勉強でそれどころではない」という声が聞こえてきそうですが、私は受験勉強をしながら読書もして欲しいと思っています。というより、読書すること事態を受験勉強だと考えてよいと思っています。是非、時間を見つけてください。

☆ 今回の最後に高大接続入試改革についての話をしたいと思います。ご存じのとおり、現在の1年生が受験を迎えるときから現在のセンター試験が大学入試共通テストに変わります。世の中が情報化、グローバル化していく中で求められる人間像が変化してきました。様々なことを「知っている」ことは大切なことですが、それだけではダメで現在の教育は「知っている」ことを「活用する」ことができるようになることを目指しています。つまり、「知っている」ことを繋げて「考える」力をつけようとしているのです。したがって、宇佐高の授業も「主体的・対話的で深い学び」を目指して授業改善に取り組んでいます。

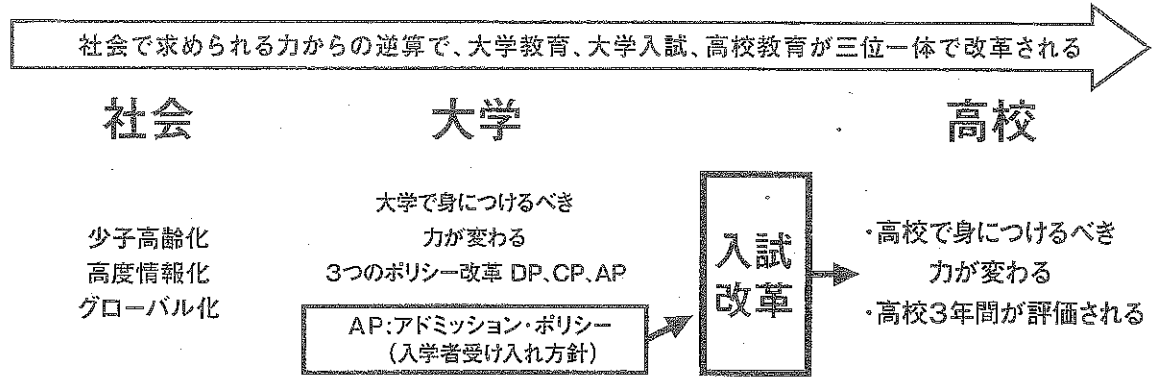
入試改革は現在の1年生が受験を迎えるときからだから現2、3年生には関係ないと思われがちですが、実はそうではありません。センター試験を含め推薦・AOや2次個別試験においても変化が起こっています。ただ、覚えているだけでは通用しなくなってきました。そういうわけで、今後入試改革に関連する話題を継続的に提供していこうと考えています。是非裏面をご覧ください。

1枚で分かる入試改革

入試改革、この2つが変わる

◎なぜ、入試が変わるのか

今、少子高齢化、高度情報化、グローバル化など、社会環境が大きく、速く変化しています。社会で求められる力が、今までとは変わってきています。そのように急激に変わりゆく社会環境に対応するには、大学や高校で身につけるべき力が変わっていかなくてはなりません。そういった様々な変化が今回の入試改革の背景にあります。



◎どう、入試が変わるのか

1 センター試験の廃止と新テストの導入

1990年から続くセンター試験が終了し、新しく「大学入学共通テスト」が導入されます。では、その「大学入学共通テスト」とは、センター試験とどこが違うのでしょうか。

<新テストの3つの特徴>

①より深い思考力が求められる

新しい出題形式も加わり、全教科において思考力・判断力・表現力をより重視した問題が出題される。

②記述式問題の導入

特に国語と数学では、これまでのマークシート式問題に加えて記述式問題が導入される。

③民間の英語4技能検定試験の活用、「話す」が問われる

これまでは「読む」「聞く」だけが問われていたが、民間の検定試験を活用することで「書く」「話す」も問われる入試となる。

入試のいろいろは

大学入学共通テストと個別試験

大学入学共通テストは、センター試験同様、1月中旬に実施される。国立大の受験では共通テストを受けた後、2月以降に大学個別の試験を受験することが原則。各否は、共通テストと個別試験、2つの試験の結果を総合的に鑑みて判定される。

2 学力の3要素が求められる入試に

学力の3要素とは「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」のこと。これらの力を「多面的・総合的に評価」する入試が拡大傾向にあります。

<多面的・総合的な評価の2つの動き>

①国立大は30%を目標に推薦・AO入試を拡大

ここ数年、東京大、京都大、大阪大など難関大でも推薦・AO入試が導入・拡大されている。国立大は今後、その動きをさらに強め、推薦・AO入試等を入学定員の30%に引き上げることを目指している。

②一般入試でも「主体的に学ぶ態度」が評価される

筆記試験が主体であった一般入試でも、調査書や志望理由書・面接などが重視されるようになる。背景には、生徒の「主体的に学ぶ態度」をより評価しようという動きがあり、活動履歴を蓄積していくこと(ポートフォリオの活用)が求められる。

入試のいろいろは

3つの入試区分

大学入試は大きく3つの区分に分けられている。

- 一般選抜(現在の一般入試)** 教科学力を中心に、主体的に学ぶ態度も評価される。教科の試験は2月以降に実施される。
- 学校推薦型選抜(現在の推薦入試)** 原則として学校長の推薦が必要。面接や志望理由書を中心に評価されるが、知識・技能および思考力・判断力・表現力も必要となる。出願は11月以降。推薦を必要とせず、面接や志望理由書を中心に評価される。
- 総合型選抜(現在のAO入試)** 知識・技能および思考力・判断力・表現力も必要となる。出願は9月以降。